

## IV-3

# キンジソウ *Gynura bicolor* の抗ストレス効果

○阿部 哲朗, 朴 奎珍, 只野 武, 太田 富久

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科

### 【目的】

キンジソウ *Gynura bicolor* は和名をスイゼンジナといい、種名の *bicolor* は葉裏が赤紫色であることから命名されたと考えられる。原産地は熱帯アジアで、我が国には 18 世紀頃に中国から伝わったとされており、金沢地方には前田藩の時代に北前船で渡来したと考えられる。沖縄地方ではハンダマと呼ばれ、金沢地方と同様、おひたしやてんぷら、サラダなどに用いられている。

これまでに我々はキンジソウの免疫賦活作用を見出しており、本研究ではストレスへの影響を調べる目的で、拘束マウスの血中コルチコステロンを測定することによって抗ストレス活性を評価・検討した。

### 【方法】

マウスを 4 群に分け、通常群は拘束なし、対照群は拘束あり、金時草投与群は拘束下に金時草粉末を 1000 mg/kg 投与した。陽性対照群は拘束下に生薬配合滋養強壯剤を投与した。4 群のマウスは 7 日間馴化させた後 16 時間絶食させ、水、金時草粉末あるいは滋養強壯剤を経口投与し、長さ 10 cm、直径 4.5 cm の PVC 管に 2 時間 30 分拘束した。拘束終了後、血中のコルチコステロン濃度を測定した。

### 【結果】

拘束終了後にマウスの血清中よりコルチコステロンを抽出し、吸光度法に基づいて定量を行った結果、対照となる拘束マウスのコルチコステロン量 (6.1 µg/mL) は非拘束マウス (3.8 µg/mL) と比較して 1.65 倍に増加した。一方、滋養強壯剤投与群は 4.8 µg/mL、キンジソウ投与群は 5.4 µg/mL と、コルチコステロン量が減少した。

### 【結論】

対照群のコルチコステロン濃度は非拘束群の 1.65 倍に増加したが、金時草投与群はコルチコステロン濃度を低下させる効果が認められた。

ストレス環境下に金時草を投与することにより、ストレスの指標となる副腎皮質ホルモンであるコルチコステロン濃度が減少したことは、金時草を食べることにより各種ストレスが軽減される可能性を暗示している。